

モロッコ経済日誌 2012年6月

在モロッコ日本大使館経済班

I. 国内経済

1. 指標等

①モロッコ高等計画委員会による2011年～2013年の経済成長率(予測値)¹

6日、モロッコ高等計画委員会は2011年～2013年の経済成長率予測値を発表。2011-2012年穀物収穫量(480万トン)、5月に採択された本年度予算などから予測。2013年予測値に関しては、12月末に採択される予定となっている2013年度予算によって変更はあるが、2012-2013年穀物収穫予測値(700万トン)や外需がやや拡大することを見据えて予測。

2011年の成長率は上方修正され5.0%、2012年予測値は2.4%だが2013年には回復すると見られている。(当館注:2012年の成長率に関しては関係機関によって数値が異なっている。経済財政省は3.4%、世界銀行は2.8%と予測値を発表している。経済財政省の説明によると、非農業成長率はほぼ同じ数字であるが、農業成長率の計算方法が収穫率、ダム貯水量、春(4-5月)の降水量、小麦以外の収穫高などを含むか含まないかなどで異なるという。)

	2011年	2012年(予測値)	2013年(予測値)
経済成長率	5.0%	2.4%	4.3%
農業成長率	5.1%	▲9.3%	5.8%
非農業成長率	5.3%	4.3%	4.1%
最終消費支出	6.7%	4.7%	4.1%
家計最終消費支出	7.4%	2.3%	4.5%
政府最終消費支出	4.6%	12.5%	3.0%
固定資本形成	2.5%	5.2%	7.1%
サービス・財貨の輸入	5.0%	5.7%	8.2%
サービス・財貨の輸出	2.1%	4.5%	6.3%
インフレ率(GDPデフレーター)	0.1%	2.1%	2.6%

②モロッコ中央銀行、主要政策金利を維持²

19日、モロッコ中央銀行は政策金利(無担保コール1週間物)を現状の3%のまま維持すると決定。

¹ モロッコ高等計画委員会プレスリリース、ホームページ:www.hcp.ma, Note d'information l'économie nationale en 2012et 2013, (6月6日発表)

² Les Echos(6月19日)

注) 1DH(ディルハム)=約9.0円

2. 建設・公共事業・インフラ等

①モハメッド6世国王、東方地域における複数の開発プロジェクトを起ち上げ³

12日、王室主導によるウジダ (Oujda) とその周辺地域の複数の開発プロジェクトについて明らかとなった。ウジダにて、国王臨席の下、ウジダ-ナドール間の一部であるウジダ-アフフィール(Ahfir)間の幹線道路工事の着工式が行われ、下水網拡張、道路網整備、公共施設建設等のプロジェクトが起ち上げられた。また、13日には、同じウジダにて国王臨席の下、人間開発に係るイニシアティブ (INDH) に関連した複数プロジェクトが開始された。

さらに、国王は16日にはジュラダ (Jerada) 地方、18日にはベルカン (Berkane) 地方における下水整備やINDHに関連した複数プロジェクトの着工式にも臨席した。

②モロッコ高速鉄道 (LGV) 建設二区間にスペインが受注⁴

19日、スペイン Assignia 社がモロッコ高速鉄道 (LGV) 二区間の建設を受注した。

- ・第1区間:33.5km, 4650万ユーロ, 工期23ヶ月
- ・第2区間:30.15km, 4100万ユーロ, 工期22ヶ月

③Maroc Telecom携帯電話基地局で太陽エネルギーを利用⁵

Maroc Telecom は携帯電話用基地局60箇所に太陽エネルギーを利用することを決定、Schiele Maroc と二年間の設計、開発などの契約を行った。Schiele Maroc は独・仏企業の Phaesun 社の太陽光システムを利用し、総計1.5MWのエネルギーを供給する。

3. 農業・漁業

4. 産業・エネルギー

①ガソリン・軽油の販売価格の値上げ⁶

2日からガソリン、軽油、工業用燃料の販売価格が上昇した。発電用燃料及びブタンガスなどは価格維持。

- ・ガソリン価格(1リットルあたり):10.18DH→12.18DH(2DH上昇)
- ・軽油(1リットルあたり):7.15DH→8.15DH(1DH上昇)
- ・工業用燃料(1トンあたり):3678DH→4666.04DH(988.04DH上昇)

³ エコノミスト(6月16日), エコノマップ(6月13-19日)

⁴ エコノマップ(6月20日)

⁵ Les Echos(6月6日)

⁶ エコノマップ(6月4日), オジヨドワイ・ル・マロック(6月4日)

②スイスの太陽エネルギー飛行機Solar Impulseがラバト及びワルザザートに到着⁷

5日、燃料を一切使用しない太陽エネルギーのみで飛行するスイスの飛行機ソーラー・インパルスはスペイン・マドリードのバラハス空港をスペイン時間5時22分(3時22分GMT)に離陸し、ラバト空港に同日モロッコ時間23時30分(22時30分GMT)に無事着陸。太陽エネルギーによる飛行機では史上初の大陸間飛行を成し遂げた。所要時間は19時間08分。同機は5月24日出発地のPayerne(スイス)を離陸し、同日深夜中継地のマドリードに到着していた。

21日、同機はモロッコ時間7時5分(6時5分GMT)ラバトを離陸し、ワルザザートに翌日22日の0時30分(23時30分GMT)に到着した。所要時間は17時間20分。

当地での受入機関はモロッコ太陽エネルギー発電庁(MASEN)で、着陸時には同庁バクリ長官その他モロッコ政府関係者らが見守った。

③風力発電計画(850MW)第一次選考(PQ)受付の締切⁸

タザ風力発電の後続フェーズとなる風力発電所建設計画(5箇所、計850MW)の予備選考の受付が6月25日に締め切られた。この受付は今年1月に開始されていたが、提出期限は3月2日、4月20日、6月21日、6月25日と4回延長された。今後のスケジュールおよび提出企業に関しては明らかにされていない。

④再生可能エネルギー・新エネルギー研究所とカナダSNC-Lavalin, ドイツMITHRAS Energies Maroc, 米国Transpacificが太陽エネルギーパイロット計画の覚書に署名⁹

再生可能エネルギー・新エネルギー研究所(IRESEN)とSNC-Lavalin, MITHRAS Energies Maroc, Transpacificは太陽熱(CSP)とソーラーオーガニックランキンサイクル(ORC)を利用した太陽エネルギー発電開発パイロット計画に係る覚書に署名した。ベンゲリ(Benguérir)で1MWの発電所を開発し、今後の開発研究に繋げる。開発研究期間は45ヶ月の予定。

⑤ジョルフ・ラスファー石炭火力発電所(700MW)の融資決定¹⁰

21日、ジョルフ・ラスファー石炭火力発電所(700MW)の設計・建設は三井物産と韓国の大宇建設がアブダビ国営エネルギー公社(TAQA)の子会社JLEC5&6社より受注しているが、今般、融資の枠組みが決定した。日本からは約40%を融資する。プロジェクト総額は14億ドルで、そのうちの2億1600万ドルを日本国際協力銀行(JBIC)が融資し、BNPParibas銀行(東京支店)、スタンダード・チャータード銀行(東京支店)、ソシエテ・ジェネラル銀行(東京支店)の3行が3億6000万ドルの融資を行う。同三行の融資には日本貿易保険(NEXI)の貿易保険が供与される。JBICのモロッコにおける初のプロジェクト融資案件でもあり、NEXIにとってもこのようなモロッコ中長期融資案件に保険を供与するのははじめて。

⁷ ル・マタン(6月7日, 23-24日), ソーラーインパルスサイト www.solarimpulse.com

⁸ ONE ホームページ, www.one.org.ma

⁹ エコノマップ(6月19日)

¹⁰ エコノミスト(6月22日), JBICプレスリリース(6月21日), 日刊工業新聞(6月21日)

14 億ドルのうち 1 億ドルが 2014 年までに借り入れ, 13 億ドルが 2028 年までに借り入れるという 16 年間の中長期融資案件。他では Banque Centrale Populaire 銀行が 40%, 韓国輸出入銀行も融資する。

⑥アブダビ国営エネルギー公社(TAQA)の子会社JLEC5&6社にモロッコ電力公社(ONE)が資本参加¹¹

モロッコ電力公社(ONE)はアブダビ国営エネルギー公社(TAQA)の子会社JLEC5&6社に資本20%の割合で参画, 28 億DHを充当する。JLEC5&6社はONEに対して, 30年間のPPA契約(長期売電契約)を締結済み。

⑦モロッコリン鉱石公社(OCP), トルコTekfen 社と合併会社を設立¹²

13日, モロッコリン鉱石公社はトルコ Tekfen 社の子会社 Toros 社と合併会社「黒海肥料貿易会社, BSFT Co: Black Sea Fertilizer Trading Company」を正式に設立した。資本比率はOCPが70%で Toros 社が30%。黒海周辺, バルカン半島, 中央アジア市場へ肥料の輸出拡大を目指す。

⑧OCPグループとJacobs Engineering がモロッコのエンジニアリング会社を買収¹³

エンジニアリング部門を強化するために, OCPグループと Jacobs Engineering は両社の合併企業 Jacobs Engineering SA(JESA)を通して, モロッコのエンジニアリング会社 Team Maroc 社を買収した。Team Maroc 社は 100%モロッコの会社で 1981 年にラバトで設立され, 技術, エンジニアリング関連の会社としてインフラ, 物流, 水, 環境などの分野においてモロッコだけでなく西アフリカにも活動を広げていた。

⑨SNI(王室グループ)の中央乳業(Centrale Laitière)株を仏ダノンに売却¹⁴

27日, SNIは中央乳業株37.8%をフランス企業ダノン社に売却することを決定した。一株1700 DHで取引価格は61億DH。ダノン社はすでに29.2%の株を所有しているので, 今般の購入で合計67%となり, 中央乳業の主要株主となる。残りの33%の株は株式市場で取引される。

⑩零細企業支援対策ロードマップ(2013~2017年)¹⁵

モロッコでは中小企業対策は打ち出されていたが, 現在まで零細企業(Très petites entreprises)支援は打ち出されていなかった。今般, 21日, 総務省(Ministère des Affaires générales et de la Gouvernance)は, ドイツ技術協力庁(Agence allemande de coopération technique)協力のもと, 零細企業支援対策ロードマップ(2013~2017年)を完成した。零細企業300万社のうちお

¹¹ Les Echos(6月19日)

¹² 経済日誌 2011年11月, Les Echos(6月14日), エコノミスト(6月14日)

¹³ Jacobs Engineering プレスリリース www.jacobs.com, エコノミスト(6月25日), エコノマップ(6月25日)

¹⁴ Les Echos(6月29日)

¹⁵ エコノミスト(6月26日)

よそ50万社が裨益する見通し。まずは、インフォーマルセクターからの法人化を促すことから始まるが、その後は4つの軸で支援が行われる予定。

- ・法人税の削減:年間売上高300万DH以下の企業は法人税率15%を適用(2011年より導入済み措置)
- ・保証基金「Damane Express」の設立:中央保証基金(Caisse Centrale Garantie)が管理し、100万DHを上限として、融資金額の70%までを保証する。また、別に、300万DHを上限とする融資枠も検討中。
- ・雇用確保に向けた経営支援(2年間)。
- ・社会保障:小規模企業向け社会保健サービスの開始。

⑪ルノー、タンジェ工場で新機種の新機種生産開始¹⁶

28日、ルノー社はタンジェの新工場で低価格車ダチアの新機種二種の生産を開始すると発表した。「Dokker」と「Dokker Van」の二種で自家用車及び業務用車で5人乗り。モロッコでは6月30日から、ヨーロッパでは今年の夏休み以降に販売される予定。

⑫2012年オフショアリングアワードにモロッコが選出¹⁷

27日、欧州アウトソーシング協会(The European Outsourcing Association)は2012年オフショアリングアワードにモロッコを選出した。モロッコの他にショートリストに載っていたのは南ア、ルーマニア、セルビア、スロバキア、エジプトだった。オフショアリングの中でもコールセンター業務(主にフランス語、スペイン語)がそのうちの80%を占めており、外国企業の海外外注業務として重要な位置を占めている。

2011年、モロッコはオフショアリング分野で52,000人を雇用、76億DHの売上高を達成した。2015年には同分野における雇用数は10万人となり、特にコールセンター分野における雇用数は7万人まで増加すると予測されている。現在のオフショアリング地区は CasaNearshore, Rabat Technopolis, Fès shore の三箇所がオープン済み、現在 Oujda shore を整備中。

⑬モロッコ王立航空(Royal Air Maroc)希望退職手続き終了¹⁸

2011年7月から2012年6月までの1年間で希望退職を募っていたところ、受理数は1,730名に達し、職員数は5,605名から3,875名に削減された。モロッコ王立航空は経営の合理化を迫られおり、今回の人員削減は効果的であるとしている。

¹⁶ エコノマップ(6月29日)

¹⁷ Au Fait(6月29日)

¹⁸ エコノマップ(6月29日)

5. その他

①国連西サハラ住民投票監視団(MINURSO)の特別代表の任命¹⁹

14日、国連事務総長は国連西サハラ住民投票監視団(MINURSO)に関し、2012年4月30日に任期を終了したエジプト人、アブデル-アジズ(Mr. Hany Abdel-Aziz)国連事務総長特別代表の後任として、独のヴァイスブロット=ヴェーバー氏(Mr. Wolfgang Weisbrod-Weber)を新特別代表として任命する旨発表した。

②モロッコ人の語学力²⁰

ブリティッシュカウンシルの依頼によりEuromonitor Internationalがモロッコ人の語学力調査(話す能力のみ)を行ったところ、各言語を話すモロッコ人の割合は、アラビア語(人口の98%)、フランス語(63%)、ベルベル語(43%)、英語(14%)、スペイン語(10%)という結果となった。英語が話せると就職の機会も広がるということから、ブリティッシュカウンシルは今後英語学習者の数が増加すると予測。

③ハッジ(メッカ巡礼)受付開始²¹

18日、観光省地域事務所で今年のメッカ巡礼パッケージツアーの受付が開始された。定員3,780名で168箇所の旅行代理店で受付可能。費用は41,900~97,900DH。

¹⁹ 国連プレスリリース, www.un.org, SG/A/1353, BIO/4377,PKO/313

²⁰ Les Echos(6月19日)

²¹ エコノミスト(6月18日)

II. 諸外国等との関係

今月号から「外国企業との関係」は「国内経済」に統合されております。

1. 外国政府との関係

①モロッコ-リビア間協力促進覚書に署名(於:リビア, ベンガジ)²²

4日, モロッコのアマラ商工業・新技術大臣とリビア側カウンターパートである Mahmoud Fetais 大臣は, アラブ・トルコ産業協力フォーラム(3日-4日)マージンで, 産業地域の整備, 品質管理, 中小企業支援, クリーンな産業開発などの面での協力促進にかかる覚書に署名。

②第17回モロッコ-チュニジアハイレベル合同委員会の開催(於:ラバト)²³

15日, 第17回モロッコ-チュニジアハイレベル合同委員会が開催された。教育, 若年層・スポーツ, 文化, エネルギー, 手工業, 社会面での協力プログラム実施(2012年~2014年)で合意した。ベンキラン首相, チュニジア・ジャバリ首相が共同議長を務めた。

③モロッコ-ベトナム間投資保護促進協定²⁴

15日, バラカ経済財政大臣とベトナム Bui Thanh Son 外務副大臣はモロッコ-ベトナム二国間投資保護促進協定に署名した。双方からの投資保護に追加の保証を付与するもので, 今後の二国間投資促進に期待。14日にはモロッコ経団連(CGEM)にてモロッコ-ベトナムビジネスフォーラムも開催。

④第7回モロッコ・スペイン投資協力フォーラムの開催(於:カサブランカ)²⁵

19日, 第7回モロッコ・スペイン投資協力フォーラムが開催された。開会式にはベンキラン首相, スペインのフェリペ王子が出席した。モロッコ企業130社, スペイン企業46社がカサブランカに集まり, 175回の B to B ミーティングが企画された。スペイン側はモロッコにおけるエネルギー, 物流, 農産加工, 自動車などの分野, さらに公共事業分野での投資機会を探る。

⑤温家宝首相のモロッコ訪問²⁶

19日, 中国の温家宝首相がカサブランカ空港に到着。空港にてベンキラン首相, バハ国務大臣, オトマニ外務・協力大臣, アマラ商工業・新技術大臣, スハイル雇用・職業訓練大臣に迎えられた。温家宝首相はベンキラン首相と会談し, 文化及び貿易を始めとした複数の分野における両国間関係の促進について協議した。

²² エコノマップ(6月6日)

²³ エコノマップ(6月18日), ル・マタン(6月16-17日), エコノミスト(6月18日)

²⁴ エコノマップ(6月18日), 経済財政省ホームページ www.finances.gov.ma

²⁵ エコノミスト(6月20日)

²⁶ モロッコ政府 Gouvernement du royaume du maroc, www.maroc.ma

⑥ベンキラン首相, リオ+20に出席(於:ブラジル, リオデジャネイロ)²⁷

20日～22日に開催されたリオ+20にモロッコからはベンキラン首相率いるモロッコ代表団が出席した。ベンキラン首相は持続的開発最終目的とは国民の生活向上, 適当な消費社会の実現, 世代・社会層のバランスの確保, 貧富の格差是正にあると言及した。

⑦モロッコ-韓国「Plant Cooperation Forum」の開催(於:カサブランカ)²⁸

26日, 韓国プラント産業協会 (Korea Plant Industries Association)と韓国貿易投資促進機構 (Korea Trade Investment Promotion Agency)がエネルギー・鉱山・水利・環境省と共同で「Plant Cooperation Forum」を開催した。OCP, ONEをはじめとしたモロッコ企業・公社100社が参加し, 二国間エネルギー開発について話し合った。1962年に二国間の国交が樹立され, 今年で50周年となり, 今後のさらなる二国間経済関係発展にあたっての良い機会となった。

韓国からは, Genco Cooperation 社, Hyundai Heavy Industries, HYOSUNG社と協力して事業を進めるフランスCEGELEC社も韓国側で参加した。その他, 天然ガスターミナルに関して, AKWA/SNI と Korea Gas が交渉を行った。

2. 経済協力

①スペインが鉄道信号計画に借款²⁹

1日, スペインがカサブランカ港駅の鉄道信号計画に対し330万ユーロの借款を供与することで合意した。同駅の増線計画に伴うもので, 工事は国際入札を経てスペイン企業がすでに受注している。償還期間20年, プラス6年の据置期間。

②モロッコ-中国間の医療協力協定の締結(於:ラバト)³⁰

5日, モロッコ-中国間で新たに医療協力協定が締結された。現在, 中国は8チーム, 79名からなる医療団をモロッコに派遣し, 地方農村部で医療活動を展開している。ルアルディ保健大臣は今後も Nador や Figuig などにも派遣してほしい旨言及した。

③世界銀行のモロッコ支援³¹

28日, 世界銀行は人間開発のための国家イニシアチブ (National Initiative for Human Development, INDH)のフェーズ2に 3 億ドル, 小規模企業, 中小企業の資金へのアクセスを容易にするために, 5, 000万ドルの融資を決定したと発表した。

INDH フェーズ2では収益を生む活動に出資, 予算も INDH フェーズ1の17億ドルから21億ドルへと増額, 対象地域も拡大した。INDHフェーズ2への融資は, 事業の結果を承認・検証し, その達

²⁷ エコノマップ(6月25日)

²⁸ ル・マタン(6月29日)

²⁹ エコノマップ(6月4日)

³⁰ エコノマップ(6月6日)

³¹ 世界銀行プレスリリース(6月28日), エコノマップ(7月2日), Les Echos(7月2日)

成度に基づいて資金を供給する世銀の新たな融資手段「成果のためのプログラム」(“Program for Results”, PforR)を利用して支援した最初のプロジェクトで今後の成果が期待されている。

3. その他

①モロッコ投資促進庁(AMDI)と中国開発銀行が投資強化の覚書に署名³²

15日、モロッコ投資促進庁(AMDI)と中国開発銀行が投資強化にかかる覚書に署名した。中国企業及びモロッコ企業に投資環境に関する情報提供などを通して支援する。

②カサブランカ株式市場とイスタンブール株式市場が提携³³

21日、カサブランカ株式市場とイスタンブール株式市場が提携した。

金融サービスに関する情報共有、人材育成などで協力する。

③モロッコの首都「ラバト」がユネスコ世界遺産に登録決定³⁴

29日、サンクトペテルブルクで開催されたユネスコの世界遺産委員会において、ラバトの世界遺産登録が全会一致で決定。

³² エコノマップ(6月18日)

³³ エコノマップ(6月29日)

³⁴ ユネスコプレスリリース, Au fait(7月2日)